



グラフィカルユーザインターフェイス
開発支援ツール

Q & A

Version 3.0

目次

1 X-Mate動作時Q&A	(4)
2 プログラミング情報	(9)
HP700シリーズ	(9)
割り込み処理/パネルを持たないプロセス	(9)
3 機種別情報	(10)
IBM RS/6000	(10)
日立 3050	(10)
Solaris2.x for x86	(10)

1 X-Mate動作時Q&A

(1) X-Mateが起動しない。

- ・環境変数 PATH は、設定されていますか？
- ・X-Mateをインストールしたディレクトリの bin に実行モジュールはありますか？
ない場合はインストールに失敗しています。再インストールして下さい。

(2) X-Mate起動後パネルに「LOAD」ボタンが出てこない。

起動メッセージ以外にエラー等は何も表示されていない場合。

- ・本製品は、共有メモリを使用しています。
共有メモリが使用可能な環境であるか確認して下さい。

「child procecc execl error …」が表示されている場合。

- ・環境変数 XMATEHOME は、正しく設定されていますか？
- ・メモリは十分ですか？ 推奨メモリ32M(16M可)です。
- ・スワップ領域は十分ですか？ 実メモリサイズ以上が必要です。

(3) SAVE処理が終了しない場合。

- ・(4)の操作に従って下さい。
- ・保存処理は多くのメモリを必要とします。保存を行なう前に、お使いのマシンで他の処理が動いていないか確認して下さい。

(4) 「しばらく、お待ちください。」のパネルが終了しない。

- ・何らかの不具合が発生しました。
パネル内にマウスを移動させて、ctrl c キーを押すとパネルが閉じますので、X-Mateを強制終了させて下さい。
(この場合、保存は出来ていない)

弊社へ御連絡願います。

(5) 編集集中にパネルが消えた場合。

- ・何らかの不具合が発生しました。
SAVE操作等は一切行なわないで下さい。
ただちにX-Mateを終了させて下さい。

弊社へ御連絡願います。

(6) 「Wnn open error」が発生する場合。

下記に示す項目の確認をお願い致します。

- ・ jserver は起動していますか？
- ・ /etc/hosts ファイルに localhost が定義されていますか？
- ・ ホスト名は 16文字以内ですか？
- ・ /usr/lib/TK2/TK_ALPHA_HENはありますか？
- ・ /usr/lib/TK2/TK_KANA_HENはありますか？
- ・ /usr/local/lib/wnn/wnnenvrc はありますか？
- ・ ユーザのホームディレクトリにディレクトリ Wnn がある場合。
Wnnの階層下のファイル群に対してアクセス権はありますか？
オーナーはユーザになっていますか？
Wnn ディレクトリを削除して、もう一度試して見て下さい。
- ・ X-Mate提供の Wnn (jserver)をお使いですか？
- ・ 環境変数 JSERVER がありますか？ あれば削除して下さい。
- ・ メッセージ中に番号が出力されている場合。
弊社へ番号を御連絡下さい。

(7) 帳票部品の行列数の制限を増やしたい場合。

環境変数を設定する事で変更出来ます。
設定値は行列共通です。

- ・ 帳票部品 (KOTABLE) の場合。

```
setenv XMATE_TABLE 最大値
```

- ・ 新帳票 (KOTABLE2) の場合。

```
setenv XMATE_TABLE2 最大値
```

注意

設定値はむやみに大きな値は設定しないで下さい。
帳票部品は、多くのメモリを消費し処理時間が増大します。
100 ないし 200位が限界と考えて下さい。

(8) 機能のキーを変更したい場合。

X-Mateでは機能の働きをするキーをデフォルトで決めています。
例えば、日本語入力における機能に使用しているファンクションキーが、
他の日本語入力ツール(メーカー標準のもの等)と違う為に、
操作に不便な事がある。といった場合に、『キーマップ変更機能』を
用意しました。

【変更方法】

変更情報を記述したファイルを作成します。
このファイル名のパスを環境変数 KTKEYMAP に設定するか、
カレントディレクトリまたはホームディレクトリにファイル名
TK.KEYMAP で作成します。

【優先順位】

環境変数 > カレントディレクトリ > ホームディレクトリ

【記述方法】

書式
ファンクション : $\left(\begin{array}{l} \text{symbol} \left\{ \begin{array}{l} \text{"シンボル"} \\ 0\text{XXXXX} \\ 999 \end{array} \right\} \\ \text{keycode} \left\{ \begin{array}{l} 0\text{XXXXX} \\ 999 \end{array} \right\} \end{array} \right) \text{ (修飾キー1 (修飾キー2)...)}$ 省略可能

ファンクション

ファンクション	意 味
Nihongo	日本語
Henkan	変換
Muhenkan	無変換
Kakutei	確定
Zen_hira	全角ひらがな
Zen_kana	全角カタカナ
Han_kana	半角カタカナ
Zen_alpha	全角アルファベット
Han_alpha	半角アルファベット
Code	コード
Backspace	バックスペース(BS)
Tab	タブ
Backtab	バックタブ
Cancel	キャンセル
Escape	エスケープ
Delete	デリート
Insert	インサート
Left	左 ()
Right	右 ()
Up	上 ()
Down	下 ()
Nop	無処理

シンボル

includeファイル `keysymdef.h` 中のシンボルを使います。
実際のキーに、どのシンボルが割り当てられているかを知る
には `xmodmap -pk` を使用するか `xev` を使用して調べる必要
があります。

修飾キー

Shift	シフトキー
Caps	キャップスキー
Control	コントロールキー
Alt	オルタネートキー

その他

で始まる行は、コメント行となります。

記述例

#	function	:	type	symbol or code	modifier
#	Henkan	:	symbol	0x20	Shift
	Nihongo	:	symbol	"Excute"	Shift
	Cancel	:	symbol	"Cancel"	
	Nop	:	symbol	"Kanji"	
	Tab	:	keycode	100	Shift
	Backtab	:	keycode	98	Shift

(9) デフォルトのフォントを変更したい場合。

X-Mateでは各マシン毎にフォント(スモール、ミドル、ラージ)をデフォルトで持っていますが、この文字フォントを任意に変更する事が出来ます。

【変更方法】

変更情報を記述したファイルを作成します。
このファイル名のパスを環境変数 `KTFONT` に設定するか、
カレントディレクトリまたはホームディレクトリにファイル名
`TK_FONT` で作成します。

【優先順位】

環境変数 > カレントディレクトリ > ホームディレクトリ

【記述方法】

書式

文字種別 : フォント名

文字種別

SKANA	スモール用	半角(ANK)
SKANJI	スモール用	全角(漢字)
MKANA	ミドル用	半角(ANK)
MKANJI	ミドル用	全角(漢字)
LKANA	ラージ用	半角(ANK)
LKANJI	ラージ用	全角(漢字)

フォント名

使用出来る文字フォントの名称は `xlsfonts` コマンドで
知る事が出来ます。
また、`xfd` コマンドにて表示イメージを見る事が出来ます。

ANK、半角カナで使用するフォントはJISの文字コード
規格0201に基づいたフォントを使用して下さい。
漢字で使用するフォントはJISの文字コード規格0208に
基づいたフォントを使用して下さい。規格外のフォント
を使用した場合、文字が正しく表示されません。

フォントを設定する場合、半角、全角のペアで設定して下
さい。また、文字のサイズは半角、全角で矛盾しない様
に設定して下さい。

その他

で始まる行は、コメント行となります。
行が長い場合は、`¥` (バックスラッシュ) を行末に付加
する事により次行を継続行とする事が出来ます。

記述例

```
# Default Font Change File
SKANA : ..... -jisx0201. 1976-0
SKANJI : ..... -jisx0208. 1983-0
:
```

2 プログラミング情報

HP700シリーズ (HP-UX)

HP-UXのプログラミングに於いて、割り込み処理内で malloc/free 等のメモリ処理を行なう(TKsend関数も含む)にあたり、main関数の先頭で次の命令を必ず行なって下さい。

```
main()
{
    mallopt( M_BLOCK, 0 );
    :
}
```

割り込み処理/パネルを持たないプロセス

j従来、TKsend関数の使用法として core の代わりに NULL を設定する方法を解説して来ましたが、割り込み処理用の core を別途用意する方法(擬似coreの生成)を行なって下さい。また、パネルを持たないプロセスからのTKsendの利用においても同様プログラミング例を以下に記します。

```
static    Ktcore    sig_core;        /* 割り込み処理用core定義 */

main()
{
    :
    sig_core.dis = XOpenDisplay( NULL );    /* 初期処理 */
    :
    :
    if( sig_core.dis != NULL )
        XCloseDisplay( sig_core.dis );    /* 終了処理 */
}

void  割り込み処理()
{
    TKsend( &sig_core, ..... );
}
```

(注) 割り込み処理用のcore情報はポインタ変数ではなく実体です。

3 機種別情報

・ IBM RS/6000

メディアフォーマット

- ・ 8mmテープ : 1ブロック 512KB です。
- ・ カートリッジ・テープ : QIC150M フォーマットです。

フォントについて

X-Mateではデフォルトのフォントとして k14 7x14rkのフォントを使用しています。RS/6000ではOSのインストールの方法により、このフォントがインストールされていない場合があります。X-Mateでは、この機種に限りフォントを添付していますので下記の手順に従ってフォントを追加して下さい。

1. X-Mateをインストールしたディレクトリのfontsディレクトリに k14.snf と 7x14rk.snf ファイルがあります。これを /usr/lib/X11/fonts にコピーします。
2. 各snf ファイルを compressを使って圧縮して下さい。
3. /usr/lib/X11/fonts ディレクトリのfonts.dir に以下の記述を追加し、ファイルの先頭にあるフォントのファイル数を +2 して下さい。

```
k14. snf. Z      -misc-fixed-medium-r-normal--14-130-75-75-c-140-jisx0208. 1983-0
7x14rk. snf. Z   -misc-fixed-medium-r-normal--14-130-75-75-c-70-jisx0201. 1976-0
```

4. 同じく fonts.alias ファイルに以下の記述を追加して下さい。

```
k14      -misc-fixed-medium-r-normal--14-*-*-*-*-*jisx0208. 1983-*
rk14     -misc-fixed-medium-r-normal--14-*-*-*-*-*jisx0201. 1976-*
```

5. Xを立ち上げ直して下さい。

・ 日立 3050

FDデバイス名

/dev/rdisk/rfd2d0g

・ LynxOS

Wnnは提供しておりません。

・ Solaris2.x for x86

インストール時、FDドライブに対してボリュームマネージャの機能を無効にして下さい。

/etc/vold.conf の "floppy" "diskette" が含まれる行をコメントにし、マシンを再起動します。

- ・ 本書及びプログラムは著作権上、当社に無断で使用、複製する事は出来ません。
- ・ 本書及びプログラムの運用上のトラブルについては責任を負いかねますのでご了承願います。
- ・ 本書または本製品の内容に御不審な点がありましたら御連絡下さい。
- ・ 本書及びプログラムは予告なしに変更する事があります。

初版発行	1991 年	1 月
第六版	2003 年	3 月

Copyright 1991 FUJI Data System Co.,Ltd.